

## 保育のヒント～「科学する心」を育てる～

地域の方とともに／社会福祉法人こども未来創生会保育所型認定こども園 さくらこども園  
(山形県)

地域との連携では、どのような工夫をされていますか？

今回は、この地域ならではの植物を、専門家の方と関わりながら育てる子どもの姿をご紹介いたします。友達、専門家の方、保育者など、人との豊かな関わりが、子どもたちの取り組みを支えています。子どもたちがサクランボへの興味を深めていく過程で、「科学する心」の育ちにつながる体験をしています。



### ○ サクランボってどうなってるの？／5歳児

園の周りには全国的に有名なサクランボの果樹園が広がっている。

2月、東根市（山形県）にある若手果樹園の農家の方で結成されている新田果樹研究会より「子どもたちと一緒にサクランボの生長を考える会をもちたい」という申し出があった。子どもたちにとって身近な植物であるサクランボへの興味と関心を、さらに深めてほしいという思いから、研究会の方との栽培活動を実施することとした。

3月、子どもたちは、研究会から苗木をプレゼントされ、初めて受粉体験をした。  
そして、毎日育てていく過程で様々な変化に気づいていった。



### ✿ お花がカサカサになって落っこちちゃってるよ

Aちゃんが、「先生！お花がカサカサになって落っこちちゃってるよ！」と、大切に育ててきたサクランボの花が枯れてしまつたことにショックで落ち込んでいる。

保育者は、「ワー本当だ！お花が落っこちているね」と受け止めた。そして、落ち込むと気持ちの切り替えが難しいAちゃんが、どんなことに気づくのか、育ててきた苗木と一緒に見ながら気持ちに寄り添うことにした。

Aちゃん：「お水が足りなかったのかなー、葉っぱは元気あるのになー」

Bちゃん：「お水あげてみたら？私のお花は咲いてるもん」

Aちゃん：「本当だ！Sちゃんのお花は元気あるね。なんでだろー！私のお花は枯れちゃった！」

Cちゃん：「多分大丈夫だよ。俺のも枯れてるし……」

Aちゃん：「本当だ！枯れているお花と枯れていないお花があるね……分かった！お花が枯れてからサクランボができるんだよ！きっと！お願い！サクランボがちゃんとできますように！」



保育者は、「みんなのサクランボの木を見比べると違う所や同じ所があるんだね」と受け止めた。Aちゃんが落ち込むのではないかと思っていたが、周りの友達の意見を聞いたり、見比べたりすることでこれからの変化にも期待をもった様子に保育者も感動した。

## ✚ これは、サクランボなのか？

昨年度ザリガニを飼育した時に発見記録を書いていたことを思い出したDちゃんが、「サクランボの発見記録を書く！」と言い書き始めた。その姿を見た他の子どもも刺激を受けて自分たちもやると張り切って書き出した。発見記録を書くうちに様々なことに気がつき表現しようとする子どもたちの姿が見られた。



樹液のかたまりを見つけると、手で触ったり、匂いを嗅いだりして、発見を友達と共有する姿があった。誰かが発見記録を書き始めると、どんなことを発見したのか興味津々で集まつてくるようになり、3歳児、4歳児も5歳児の活動に興味を示し始めた。

Cちゃんが、花が落ちた後の茎の先に膨らみを見つけて、「サクランボできる」と言った。その発見を聞いた子どもたちは、自分の苗にも同じものを発見し喜んだり、発見できず落ち込んだりと様々な姿があった。また、毎日観察することで、自分の苗と友達の苗の違いを感じ、喜んだり悲しんだりする姿があり、悲しんでいる子どもに、寄り添って慰める姿もあり、保育者は、子どもたちの心の成長に感動した。

Eちゃん：「先生！ 私のサクランボ……小さいのに黒くなっちゃってる」

子どもたちは、Cちゃんの発見から自分たちの苗に起こる変化を気にするようになった。

Eちゃん：「でもさー多分、サクランボだと思うよ！！ だって、なんでも赤ちゃんは小っちゃいでしょ？」

Fちゃん：「私もそう思う！！ 最初は小っちゃいけど、少しずつ大きくなるんだと思う」

保育者：「なるほどね。それじゃ、あの小っちゃい粒が本当にサクランボになるのか観察しようね」

Eちゃん：「うん！ お水あげなきゃね」

数日経つと、小さなサクランボの実にも少しづつ変化が見え始めた。

Eちゃん：「いいなー私のは一つしかなってない……」

Cちゃん：「僕のなんか……一つも付いてない」

Gちゃん：「え？ なんで？ こないだまであったじゃん！」

Cちゃん：「葉っぱも元気ないし……」



Hちゃん：「私のサクランボもなくなっちゃった……」

Cちゃん：「え？ なんでだろう」

Hちゃん：「小っちゃいまんま落っこちちゃったの、ほら、下に落ちてるでしょ……」

がっかりするHちゃんにFちゃんが頭を撫でながら、「もう少し元気な声でおはよう！って言えば、残っているサクランボは元気になるんじゃない？」と言う。すると、Hちゃんは、「そうするー」と元気に答えた。

研究会の方に連絡を取り、苗木を見に来ていただいた。そして、サクランボの苗木に実を大きくする力がなく落ちてしまったパターンとたくさん実を付け過ぎて自ら落とすパターンがあるが、この場合どちらかと言うと木に力がなかったと考える方がよいとの回答をもらった。すると、子どもたちは、また育てる意欲が湧き、さらに積極的に世話ををするようになった。



## ✚ みんなで振り返り

サクランボが色づき始め、収穫を迎える時期になった。今までの栽培体験の中で子どもたちが疑問に思ったことなどを果樹研究会の人たちに聞くことになり、事前に振り返りをした。

Iちゃん：「サクランボが出なくて悲しかった」

保育者：「なんで出る人と出ない人がいるのかな」

Cちゃん：「お水あげてないんでしょ」

Iちゃん：「お水はいつもあげてるけど……」



Jちゃん：「Sちゃんのとかたくさん出たでしょ？ IくんとかEちゃんのは出てないでしょ？ 頑張ろうと思ったけどできなかった」

保育者：「サクランボさんが、頑張ろう！って思ったんだけどできなかった？」

Tちゃん：「多分、お花が邪魔だった？で、出たかったけど出れなかった」

Cちゃん：「多分、お花って落ちるんだよ！サクランボの細長いやつ！サクランボの棒みたいなのが付いてるじゃん、サクランボの上のほうに付いてるじゃん、その中にサクランボが入っていたんだよ！花の中にサクランボは入っていたの！」

保育者：「お花の中に？」

Cちゃん「本当は、最初黒くて小っちゃくなつてんの！」

保育者：「最初は小さくてお花の中にあったの？」

Cちゃん「そう！！めっちゃ小さかったの」

保育者：「なるほどー」

Cちゃん：「だから、最初はめっちゃ小さかったんだけどお花が取れて、それでサクランボができるんだよ！お花が邪魔だったんじゃないで、たぶん、茎みたいな所！ほら！Tちゃんのも同じでしょ？花の所だけ取れたやつはいいけど、この茎みたいな所から取れちゃうとダメなの！」



後日、新田果樹研究会の方に来ていただき、子どもたちが疑問を伝えると、一つ一つ丁寧に答えて教えてくださった。子どもたちは、サクランボを育てることがとても大変で時間がかかる経験を通して感じ取った様子だった。

## ◆ 考察

自分のサクランボを実らせようと、一人1本の苗を育てるという貴重な体験を通して、子どもたちは様々なことを学んでいった。

### 子どもたちが育ったところ

- ・生きているものを育てることの大変さを知り、日々の積み重ねを大切にするようになった。
- ・自分の木と相手の木を比べることで変化に気づくなど「科学する心」の芽が育った。
- ・栽培を通して様々なことを考え疑問に思ったり、答えを見つけようしたりしていることが分かった。
- ・友達の木がうまく生長していない場面などでは、友達を誘い共に観察したり、自分の木の収穫と一緒にしたりなどの思いやりの気持ちが見えた。
- ・周囲の環境を身近なものとして遊びに取り入れる力がついた。
- ・自分の意見を素直に表現する力が伸びた。
- ・相手の意見を聞き、受け入れたり話し合いをしながら解決しようしたりする姿が育った。
- ・サクランボの木の生長を感じとり、生きているという実感を体験した。